

大学院教育支援機構（DoGS）海外渡航助成金 報告書

Outcome report

計画名 Plan	タイ産イネ科植物の標本調査とフィールド調査
氏名 Name	小林智
研究科・専攻・学年 Graduate school/Division/Year level	理学研究科・生物科学専攻・修士2年
渡航国 Country	タイ王国
渡航日程 Travel schedule	2025年 10月 18日 ~ 2025年 10月 25日

- ページ数に制限はありません。No limits on the number of pages
- 写真や図なども組み込んでいただいて結構です。You can include pictures or illustrations.
- 各項目について具体的に記述してください。Please fill in each item specifically.
- 日本語または英語で記載ください。Please use Japanese or English.

渡航計画の概要 Outline of the travel plan

今回のタイへの渡航では、タイ北西部に位置するドイ・チェンダオとドイ・インタノン(図1)にて、フィールド調査を行った。タイの植物相は「Flora of Thailand プロジェクト」によって進められてきたが、イネ科植物については、大幅に研究が遅れておりほとんど解明されていない。そこで、タイ国立公園・野生生物・植物保全局森林標本館の共同研究者らとともに森林や草原を調査し、イネ科植物とその生育地情報を収集する。また、収集した植物についてはDNA および染色体解析用の試料と証拠標本を作製し、私の東南アジアにおけるイネ科植物調査の礎とするとともに、タイ植物相の解明につなげる。

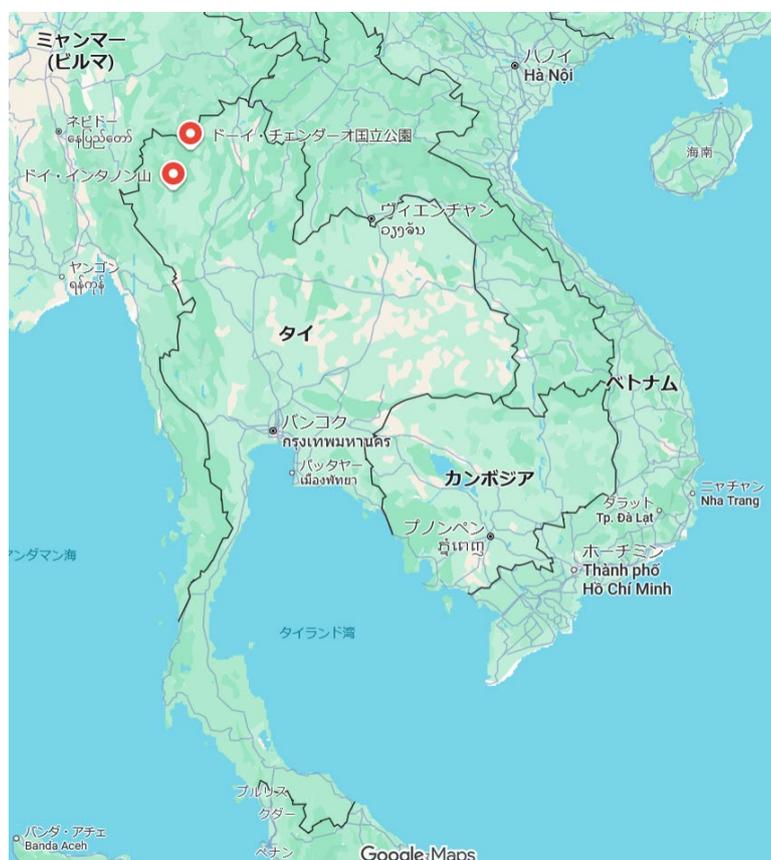


図1. 調査地 (地図は Google Maps を利用)

成果 Outcome

タイ北西部ドイ・チェンダオ、ドイ・インタノンにおいて、国際合同植物調査に参加した。本調査は、タイ国立公園・野生生物・植物保全局森林標本館（BKF）のタイ人研究者、京都大学と鹿児島大学の日本人研究者ら、合計 10 名によって行われた。私はイネ科植物を担当し調査を進めた。調査期間中にイネ科植物約 80 分類群を確認し、それらすべてについて、DNA 解析および染色体解析用の試料と証拠標本を作成した。証拠標本は各分類群について 1~3 シート作成し、そのうち第 2 セットは BKF に收藏される。

本調査によって、タイではキビ亜科の多様性が極めて高く、日本のイネ科構成種とは大きく異なることを学んだ（図 2）。その一方で、タイの亜高山草原（図 3）では、日本産イネ科との共通種や近縁種も多くみられた。

それに加えて、私にとって初めての海外調査、チームでの調査だったので、他の方々の記録や採集の仕方についても多く学ばせていただいた（図 2）。



図 2. 調査風景（ドイ・チェンダオ）



図 3. ドイ・インタノンのイネ科が優占する草原

今後の展望 Prospects for the future

今後は、採集した標本について種レベルの同定を進めるとともに、シリカゲルで固定したサンプルを用いてDNA解析とフローサイトメトリーによる倍数性解析を行う。これによって、タイのイネ科植物相の概観をつかみたい。そして、この成果をタイにおける植物相の解明や保全につなげていきたい。

今後、調査地をタイの他地域や、その他東南アジアに広げ、イネ科の進化の歴史を探る研究を進める上で、今回の調査の経験は大きな足掛かりとなった。今回の調査では、ほとんどの植物について、現地での同定はできなかった。そのため今後は、標本や植物誌を利用してより深い知識を身に着けて、フィールド調査に取り組んでいきたい。